



特集 第27回
敬老標語入賞作品 P.2

P.3 ことしの敬老標語・講評
第44回 感謝のハガキ送付事業

P.4-5 赤い羽根共同募金

P.6 暮らしキーワード

P.7 ボランティア保険からのお知らせ

P.8 ふれあいフォトコンテスト作品募集
インフォメーション



発行 社会福祉法人余市町社会福祉協議会

〒046-0011 北海道余市郡余市町入舟町400番地

☎ (0135) 22-3156 ☎ (0135) 23-3664

<http://www.yoichi-shakyo.or.jp/>

この広報誌は、社協会費・共同募金助成金・広告料の一部を活用しています。



第27回 敬老標語入賞作品決定!!

特集

毎年9月の「敬老の日」にちなみ、多年にわたり社会に尽してきたお年寄りへの感謝の気持ちから実施してまいりました敬老標語の募集も今年度で27回を迎えました。今回も、各小・中学校より多数の応募があり、審査の結果入選作品がつぎのとおり決定いたしました。
(8月20日審査)



余市町長賞 (最優秀賞)

そぼのかお はなれていても わすれない
花うえる おじいさん見て 笑顔さく
大川小学校3年 新沼 和歩
西中学校1年 千葉 想太

余市町教育長賞 (優秀賞)

長生きの 分だけふえる 経験ち
散歩中 やさしくえがおで ごあいさつ
大川小学校5年 柚木 俊一郎
東中学校1年 庭田 心音

余市町校長会会長賞 (優秀賞)

おじいちゃん コロナおわたたら どこか行こう
祖母だけが 出せるこの味 魔法かな
黒川小学校3年 大村 成
旭中学校3年 森 未唯依

余市町老人クラブ連合会会長賞 (優秀賞)

バスの中 席をゆずろう ぼくたちが
会えなくても ふたりの笑顔 忘れない
大川小学校6年 打矢 蒼
東中学校3年 荒木 麻綾

余市町地域子ども会育成連絡協議会会長賞 (優秀賞)

おじいちゃん 畑がえりの中からには 黒い日焼けに白いあと
ありがとう あなたののおかげで 今の僕
沢町小学校6年 鈴木 七海
西中学校2年 永原 旺来

余市町民生委員協議会会長賞 (優秀賞)

すてきだな たくさん笑った その笑顔
手の中に つまめたものは 思いやり
大川小学校6年 高柳 美冬
西中学校3年 成田 亜美

北海道新聞社余市支局長賞 (優秀賞)

おばあちゃん ずっとずっと 元気でね
誇りある 今をつくった 祖父祖母ら
登小学校5年 村上 仁臈
東中学校2年 田村 柚珠

余市町社会福祉協議会会長賞 (優秀賞)

お年玉 祖父の愛情 一億円
あったかい しわがたくさん 祖父母の手
沢町小学校4年 吉崎 武琉
旭中学校1年 田中 涼太郎

**新会員
募集中!**

シルバー人材センターは

高齢者にふさわしい仕事を事業所・一般家庭・行政機関等から引き受け会員に提供します。



仕事の発注は
ぜひ!
シルバー
人材センターへ
責任をもつて
仕事をします

●お申し込み・お問い合わせは● 余市町黒川町5丁目22番地

TEL. 22-7641 FAX. 22-7642
http://www.yoichi-sc.or.jp/

高齢者の知識・経験を生かして働ける

公益社団法人 余市町シルバー人材センター

第27回敬老標語審査委員長・講評



余市町校長会会長
石山慎人氏
(旭中学校長)

余市町敬老標語募集事業は、住み慣れた地域で、だれもが健康で安心して生きがいをもった生活を送ることができ、「福祉のまちづくり」を推進するため、標語づくりを通じ、児童生徒が高齢者福祉について理解と関心を深めることを目的として実施されており、

今年で二十七回目となりました。

今年も伝統ある敬老標語募集に多数の児童生徒のみなさんからの作品応募があり、大変うれしく思います。児童生徒のみなさんが、日常のお年寄りとのふれあいを通して、気付いたり、考えたりしていることが、どの作品からも伝わってきます。

また、どの作品にもお年寄りを敬い、長寿を願う心が表現されており、余市町の児童生徒が、高齢者へのいたわりや感謝の気持ちにあふれた優しい子どもに育っていることが実感でき、大変頼もしく思います。

小学生のみなさんは、おじいちゃん・おばあちゃんには、いつでも元気で長生きしてほしいという気持ちを素直に表現し、標語作品からは、自分をあたたく見守ってくれていることに対する感謝の気持ちがあふれています。

また、中学生のみなさんの作品からは、自分がこれまで祖父祖母の深い愛情に育まれてきたことへの気付きと祖父母への敬愛とともに、多年にわたり社会につくしてきた高齢者に対して感謝する気持ちも伝わってきます。

今、世の中はものすごい速さで変化しています。少子高齢化が進み、高齢者より子どもの数が減っていますが、反面、核家族化も進み、児童生徒と高齢者が同居している世帯は少なくなっています。

このような時だからこそ、児童生徒が、この敬老標語募集事業を通して、自分と高齢者とのつながりについて考える機会はとても重要なものであり、この事業はたいへん意味深いものといえます。余市町の児童生徒には、これからもこうした機会を利用して、高齢者に対する思いやりの気持ちを深めてほしいと思います。

結びになりますが、子どもたちの標語作品応募にお力添えをいただいた町内各小・中学校の先生方、並びに、標語作品審査にご協力いただきました町内社会福祉関係者各位に対し深く感謝を申し上げます。講評といたします。

最優秀賞

(余市町長賞)



小学校の部
大川小学校3年 新沼和歩さんと
明村校長と担任の荒木教諭 (右)

そほのかお
はなれていても
わすれない



中学校の部
西中学校1年 千葉想太さんと
担任の平松教諭と佐藤校長 (右)

花うえる
おじいさん見て
笑顔さく

第44回 敬老の日・感謝のハガキ送付事業

77歳以上の高齢者3,346名(2,770世帯)の方へ、長寿をお祝いする感謝のハガキが届けられました。

今年も「敬老の日「感謝のハガキ」を送る事業」が町内の小中学校7校の児童・生徒の協力を得て実施されました。毎年9月の「敬老の日」にちなみ、余市町地域子ども会育成連絡協議会が各学校へ依頼し取り組んでいます。

- 【主催】 余市町地域子ども会育成連絡協議会
事務局: 余市町青少年対策室(中央公民館内)
- 【共催】 余市町社会福祉協議会

※この事業は、皆様から集められた赤い羽根共同募金からの助成を受けて実施しています。



運動期間
10月1日
▼
12月末日

赤い羽根共同募金

令和2年度目標額
2,600,000円

今年もご協力お願いします

募金を集めるのにも理由があります。それが計画募金です。

赤い羽根共同募金の目標額

「赤い羽根共同募金」は、事前に地域内の社会福祉施設や社会福祉団体、NPOやボランティア・市民団体などの各種活動に必要とされる資金ニーズを勘案し、使いみちの計画を立ててから募金活動を行う「計画募金」です。共同募金は「各地域で様々な福祉活動を行うために最小限度必要な額」を基に、あらかじめ“使いみちの計画”を立てることが義務付けられていることから、計画に必要な総額が「全道で今年最低これだけの資金が必要」ということになり、これが「目標≦寄付期待額（目安額）」になります。



ご協力いただいた募金の使いみち

皆様から寄せられた募金は、高齢者、障害者、子ども達などへ地域の福祉活動を支援するために役立てられています。また災害発生時には、募金の一部を災害等準備金として、被災地での災害ボランティアセンターの開設・運営などにも役立てられています。

募金の約7割は、
あなたの町を良くするために使われています。

誰かのためにと
募金をしたら、自分たちの町のための募金でもありました。町のみんなで集めた募金は、じぶんの町を良くする活動に使われています。



ありがとう メッセージ

NPO法人しりべし地域サポートセンター「コミュニティ茶屋」 余市町入舟町462-2
車両購入事業 一通所の送迎、請負作業品の運搬用車両

共同募金は、たくさんの道民の方々のやさしさによって支えられています。令和元年度に皆様からお寄せいただいた募金の中から、今回助成を受けられた団体より、感謝の気持ちを紹介します。



このたびは、赤い羽根共同募金寄付金で“キャラバンチェアキャブ”を助成していただきありがとうございました。私どもコミュニティ茶屋は、障がいのある方の働く支援として、ドーナツなどの焼き菓子・パン・コロッケ等の食品の製造販売、喫茶店neccoの営業、企業からの下請け作業、町内にある施設の清掃作業の請負、羊毛作品の製作などを行っております。また、日中活動の支援として、生活介護事業を行っております。

おかげさまで、コミュニティ茶屋で活動する方が年々増え、事業所の送迎ニーズが高まるなか、開設当初から使用していたチェアキャブ車の老朽化が問題になっていました。しかし、今回の助成金により、新しい車両に入れ替えることができ、これまで以上に安心・安全な状態で送迎が行えます。これからも大切にに使わせていただき、障がいのある方の働くことへのサポートを充実させていきたいと思っております。本当にありがとうございました。

(令和元年度助成決定)

募金は、
未来へつづく。

令和元年度 共同募金運動結果報告 (余市町)

令和元年度も余市町内の皆さまからの
あたたかいご支援の気持ちと、たくさんの募金が寄せられました。

ご協力ありがとうございました



第73回 赤い羽根共同募金運動

【取扱い期間】 令和元年10月1日 ▶ 令和元年12月31日

令和元年度共同募金総額 3,733,874円

赤い羽根共同募金 2,363,274円

歳末たすけあい募金 1,370,600円



令和元年度共同募金結果

募金区分	実績額
①戸別募金	2,079,795円
②法人募金	79,500円
③街頭募金	80,574円
④学校募金	49,452円
⑤その他	73,953円
合計	2,363,274円

皆さまから寄せられた募金のうち、**119万2,774円**は「余市町社会福祉協議会」を通じ、次のとおり令和2年度に於いて、様々な地域福祉活動推進のため有効に活用されます。

令和2年度余市町社会福祉協議会 / 地域福祉事業 (共募助成分)

事業区分	予算額	%
・高齢者福祉のために	89,000円	7.5%
・障害者(児)のために	40,000円	3.3%
・児童・青少年福祉のために	42,000円	3.5%
・ボランティアの育成・活動支援のために	342,000円	28.7%
・地域福祉活動のために	679,774円	57.0%
合計	1,192,774円	

令和元年度歳末たすけあい募金結果

【運動期間】 12月1日 ▶ 12月31日

募金総額 1,370,600円

集められた募金は、一旦「北海道共同募金会」で集約され、翌年度、計画に基づき必要な金額を申請の上、余市町共同募金委員会へ助成されます。

令和元年度
助成内訳

- ・歳末見舞金の贈呈 366,000円
- ・地域福祉サービス基盤整備事業 128,839円
- ・社会福祉団体、NPO法人などへの支援 670,000円
- ・歳末たすけあい運動にかかる経費 92,919円
- 合計 1,257,758円



困っている人がいる。
助けてあげたいと思う。
その思いを募金に変える。
助成金となって
必要な人のもとへ届く。
困っていた人が笑顔になる。

戦後から続く、
赤い羽根共同募金。
人を思うやさしさは、
色褪せることなく
ありません。
思いやり、助け合いは
いつの時代にも必要で、
必然のことだから。

70年、ありがとう。
赤い羽根共同募金は
これからもやさしさを
つないで、未来へ。

今年もご協力よろしく
お願いします。



余市町共同募金委員会

余市町入舟町400番地
TEL 22-3156
FAX 23-3664



この文章を書いている8月下旬、新型コロナウイルスの感染がまだ続いています。春から人が集まるイベントや催事はほぼすべて中止。小中学校は春の休校措置の見返りで夏休みが短縮されました。3密防止やさまざまな自粛要請で経済活動が止まり、景気は一気に冷え込み、じわじわと失業者が増えつつあります。嵐の前の不気味な静けさの様相です。

この状況で、人との接触を

避けるためインターネットを使った、いわゆる「オンライン」の利用が推奨されています。何事にも周囲から後ろ指をさされることを嫌う性格の日本人。お盆にはお墓の掃除などを業者に代行してもらい、端末の画面に映ったお墓に手を合わせる「オンライン墓参り」のサービスまで登場しました。

国挙げての「オンライン」の大号令で思い浮かぶのが、窓口担当職員の削減)で、申請はオンラインが前提。パソコンに不慣れなブレイク氏はなかなか申請できません。問い合わせの電話をかけると、保留中のメッセージが延々と流れるばかり。地域の福祉事務所に行きますが、そこでもオンラインが原則です。ブレイク氏を手助けしようとする親切な女性職員がいますが、そのあとの対応が面倒になるといわんばかりに上司の男性が女性職員に「特別扱

「オンラインに思う」

北海道新聞社余市支局

支局長 川村史子



があらわれませんように。新型コロナウイルスの感染拡大で日本のオンライン化の普及の遅れがやり玉に挙がりましたが、視点を変えればネットを使えない人にも優しい社会とも言えます。

一方、移動しないで済むオンラインはたしかに便利ですが、私がかねて要望しているのが、町議会の審議のネット中継です。余市町役場庁舎にはエレベーターがありません。3階

2016年のカンヌ国際映画祭で、最高賞のパルムドールを受賞したイギリス映画「わたしは、ダニエル・ブレイク」。社会派の巨匠、ケン・ローチ監督の作品です。主人公は年配の腕の良い大工のダニエル・ブレイク。奥さんを病気で亡くして1人暮らしです。心臓の病気で医者から仕事を控えるように言われ、国の福祉のサービスを受けようと申し込みますが、「行政の効率化」(つまりは

いしないように」と叱責します。女性職員が上司に強く言えないのは、彼女が臨時か非正規のためではないかと想像しました。最終的にブレイク氏は貧困世帯をサポートする市民団体に辿りつくのですが…。オンライン申請というと、この映画を思い出します。税金や掛け金はしっかり取るくせに、ネットに不慣れな人を排除する公的サービス。どうか日本にダニエル・ブレイク

の議場まで階段を上るのは足の不自由な人には大変な苦勞です。感染のリスクもありませんが、農作業をしながらスマホで音声を聞けます。道内では上川のみ美瑛町や十勝の池田町、中札内村、道南の知内町など数多くの町村で導入しています。後志管内では倶知安町が実施しています。

もしものとき安心と信頼の全国ネット
if共済会取扱加盟店

●経済産業大臣認可 全国葬祭業協同組合連合会
●国土交通大臣認可 全国霊柩自動車協会 加盟店

年中無休 24時間営業

厚生労働省認定葬祭ディレクター
技能審査1級葬祭ディレクターが対応します。

—葬儀全般お手伝い承ります— (受付・司会・会計)

(有)余市葬祭社
中道造花店
余市町黒川町12-83-4(本社)
☎22-3254 FAX 23-4241

各宗派御葬儀式場
冷暖房完備・駐車場完備
最大収容人数500名

すすらんホール
余市町黒川町13-10-1 ☎21-4499
最大収容人数150名

さくらホール大川
余市町大川町3-79 ☎48-9494

ボランティア保険からのお知らせ

(追加改定)

ボランティア保険とは…

この制度は、ボランティア個人またはボランティアグループなどが加入申込人(加入者)となり、ボランティア個人を被保険者(保険の補償を受けられる方)として全国社会福祉協議会が一括して損害保険会社と締結する団体契約です。

引受損害保険会社 「損害保険ジャパン日本興亜株式会社」

Tel.03-3581-4667/Fax.03-3581-4763 URL <http://www.fukushihoken.co.jp>



ボランティア活動保険における“新型コロナウイルス”の取り扱いについて

補償対象として追加

これまで新型コロナウイルス感染症は補償対象外でしたが、令和2年5月1日に保険の改定が認可され、ボランティア活動中に新型コロナウイルスに罹患して治療を受けた場合は、補償の対象とすることとなりました。

(令和2年2月1日に遡り適用します)



補償される保険金の種類

- ①葬 祭 費 用……実額(300万円限度)
- ②後遺障害保険金……1,040万円
- ③入 院 保 険 金……日額6,500円
- ④通 院 保 険 金……日額4,000円

重要 ボランティア行事用保険では補償対象となりませんので、ご注意ください。

よくあるご質問 (Q & A)

- Q1** ホテルでの隔離や自宅での療養の場合は？
- A1** 新型コロナウイルスに感染し、医師の指示のもと軽症や無症状の方等がホテル等の臨時施設または自宅で療養する場合は「入院」とみなし保険金をお支払いします。
- Q2** 活動中に新型コロナウイルスに感染したのかの判断は？
- A2** 新型コロナウイルスに感染したと想定される付近の日時に活動実態があるか、活動以外に感染要因となる事象(院内感染、クラスター等)がないか等確認させていただいたうえで、保険会社が判断します。

ボランティア活動保険

ボランティア活動中のさまざまな事故による「ケガ」や「損害賠償責任」を補償します。さらに後遺障害もフルカバーなので安心！万が一の事故に備えてぜひご加入下さい。震災支援活動をご検討されている場合は、天災タイプへのご加入をお勧めします。



補償金額(保険金額) ※基本プランでは地震、津波に起因する死傷は補償されません。

	加入プラン	基本プラン	天災・地震補償プラン
ケガの補償	死亡保険金	1,040万円	
	後遺障害保険金	1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額	6,500円	
		手術保険金	入院手術
		外来手術	32,500円
	通院保険金日額	4,000円	
	地震・噴火・津波による死傷	補償されません	○
特定感染症の補償	上記後遺障害、入院、通院の各保険金額に同じ		
賠償責任補償	葬祭費用保険金(特定感染症)	300万円	
	賠償責任保険金(対人・対物共通)	5億円(限度額)	
保険料(年額)	350円	500円	

●川柳・俳句・短歌集 記録研究/記念誌等
企画—印刷—製本—発行 あらゆる印刷の相談は…

〒046-0004 北海道余市町大川町14丁目14番地

株式会社 **おおはし**

TEL(代)0135-23-4591 / FAX 0135-22-3600

●mail:oo84@cocoa.ocn.ne.jp



〒046-0004 北海道余市町大川町14丁目14番地

株式会社 **おおはし**

TEL(代)0135-23-4591 / FAX 0135-22-3600

2020

ふれあいフォトコンテスト 作品募集!

【応募締切】10/30(金) ※当日消印有効

今年は「きずな」をテーマに、家族との絆や子育てを支え合う様子、お年寄りの生き生きとした姿や生活の様子など、思い思いに「きずな」をイメージした写真を募集します。心に残るドラマチックな作品をお待ちしています。

【募集要項】

- ✦ テーマ / 「きずな」
 - ✦ 被写体 / 家族、子供、高齢者 ※被写体となっている人に必ず応募の承諾を得てください。
 - ✦ 作品規格 / 応募者本人が撮影（過去1年以内）した未発表の作品。
カラープリントでサイズは2L版(127mm×178mm)に限る。
撮影画像の加工・合成等の修正した写真は不可。
トリミングは可。写真に日付が入らない様にして下さい。
 - ✦ 応募資格 / 余市町在住又は在勤の18歳以上の方
 - ✦ 応募先 / 〒046-0011 余市町入舟町400番地 余市町社会福祉協議会内
「ふれあいフォトコンテスト」係 ☎22-3156
 - ✦ 入賞 / ふれあい大賞【最優秀賞】1名様：1万円商品券・記念品
ドラマチック賞【優秀賞】2名様：5千円商品券・記念品
審査員特別賞【入賞】2名様：3千円商品券・記念品
 - ✦ 入選発表 / 11月をめどに審査し入賞者へ通知します。
- ※詳細については、町内公共施設に備え付けのチラシをご覧ください。

【主催】社会福祉法人余市町社会福祉協議会 【共催】子育てサポートセンター

ご寄付いただき ありがとうございました

皆様のご寄付は福祉のまちづくり推進のため、有効に活用させていただきます。

- 戸井会計事務所 取締役社長 安部 正昭 様 (小樽市) 10,000円
- ニッカウキスキー株式会社 様 58,741円
- (株)北海道ニッカサービス 様 48,860円 (社会貢献活動の一環/エコマイレージ活動)



共同募金委員会からのお知らせ

北海道共同募金会では10月16日から公開される《劇場版「鬼滅の刃」無限列車編》とのコラボレーション企画として次の「関連資料」を製作しました。

ご希望の方は、目安額として寄付を募りますので、お早めにお申し込み下さい。
(お一人様1枚/先着20名様限り)



募金目安額 300円
(「鬼滅の刃」クリアファイルA4サイズ1枚)



【お問合せ先】

余市町共同募金委員会・事務局
入舟町400番地 (福祉センター入舟分館内)
平日 9:00~17:00 ☎22-3156